

正義ノ為

ハルクバシ 臨時軍法會議ニ對スル

公訴狀

一九四七年 第四號 〇四〇

女王陛下ノ御名ニ於テ

ハルクバシ 檢察官ハ

被告人 所屬 東部、北九州、サトウ糖、バシ

職名 商人 石橋商會主

代名

收容所番子ハ一九五

A

ニ係ル新聞書ヲ調査シ

被告人ヲ「戦時中戦時法規現行慣習ニ違反シ屢々婦女子ノ賣淫ノ為」
誘拐スルニ因テ起訴ス可キ法條を充テアリト認メ

被告人ハ昭和二十一年四月一日ヨリ、ハルクバシ、サトウ糖戦時犯罪容疑者收容所

ニ拘禁セラル事ヲ認メ

被告人ヲ監禁スル理由を充テアリト認メ

官報一九四六年第四號第一條註ニ官報一九四六年第四號第四條「戦争

犯罪刑法規定」ヲ適用シ

決定

前記載被告人石橋中郎ヲ左記ノ件ニ因テハルクバシ臨時軍法會議
ニ起訴ス

記

被告人ハ敵國人タル日本臣民ニシテ戦争法規現行慣習ニ違反シ戦犯罪
ヲ犯シタリ 即ケ

山一九四三年和蘭投降後然レ戦時中被告人ハルクバシニ於テ所有セル
日本軍用慰安所ニ於テ強制賣淫セシムル目的ヲ以テ賣淫ノ婦女子ヲ

ハトウアムル 若ハ蘭領東印度内、一、所ヨリ誘拐シテ

四一九四三年十月即ク戦時中前記載ノ慰安所ニテ強制賣淫セシムル目的ニテ約五十五名ノ婦女子ヲ、スエヤ若ハ蘭領東印度内、一、所ヨリ誘拐シテ

被告人ハ前記載慰安所ノ所有者トシテ之等ノ婦女子カ賣淫ヲ拒絕セム場合彼等ヲ虐待ニテ賣淫ヲ強制シテリ 就中

一、ラティナムト言フ者ヲ彼等ノハトウアムルニ於テ住居ヨリ強制賣淫ノ目的ニテ誘拐シ居ル。彼女カ強制仕事ヲ賣淫ヲ拒絕スル度ニ故意ニ拳骨ニテ殴打ヲ加ヘタリ

二、エリヤムト言フ者ヲ強制賣淫ノ目的ニテ、スエヤヨリ誘拐シ居ル。彼女カ賣淫ヲ拒絕スル度ニ故意ニ拳骨ニテ殴打ヲ加ヘタリ

之等ノ事實ハ官報一九四六年第四號第一條並ニ官報一九四六年第四五號第四條ニ該當シ四罰ス可キナルヲ以テ
被告人ヲ昭和三十三年十月十七日全曜日午前十時三十分、グックパン、サントナ軍集會所ニ於テ開廷セシムル可キ臨時軍法會議ニ公訴シ
被告人ヲ收容所ニ監禁シ置キ

法律ニ依ル証人等、ラティナム、エリヤム、ラティナム、マリーヤムヲ日時相違テ出廷セシムルハ、陸軍警察官ニ對シテ以下次ノ如ク命ズ

記

被告人ニ對シ本狀ノ内容ヲ理解セシメ本狀、翻譯ヲ液スト共ニカキテ通知ス

一本事件カ臨時軍法會議ニ於テ裁判セラル際被告人ハ自選辯護人若ハ官選辯護人ニ依リ補助セラル事

一被告人カ自選辯護人ニ依リ補助セラル場合ハ之ヲ裁判ノ日ヨリ四日前迄ニ届ケ先下被告人ニ對シ本狀ノ内容ヲ理解セシムル時裁判ノ日ヨリサトモ八日前トス

ハリウクパン

昭和三十三年九月九日

檢察官代理

L. J. H. コーモンス 法學士

白の信文

解釋

鈴木文三郎